



今年の梅雨は、最初空梅雨かなと思っていたけれど、
明ける前にかなりの大雨が・・・

梅雨が明けると本格的な夏です。

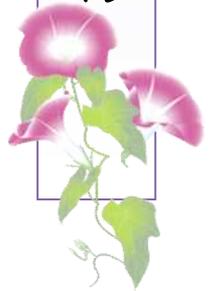
今年も暑くなるのでしょうか。

先日、田舎でのスローライフを楽しんでいる方の庵に
陶芸と野草を観に行ってきました。

犬と猫とアヒルと一緒にのんびりとゆったりした生活を送る彼女も、とても魅力的な人。

野草を育てて、自分の焼いた焼き物の器に入れる。畑仕事をして自給自足の暮らし。
羨ましいな・・・娘とひとときほっこりした気分になりました。

十七文字の抒情詩 43



さて、今回も健さんとうさおさんの句を
鑑賞させていただきます。

まずは健さんの句です。

遙かなる街をつなぎぬ虹の橋

前掲載せられなかったもので、春の季語なのですが
今回掲載させていただきます。

街と街を繋ぐように虹がかかっているのですね。
リズムも良いし、良い句です。

青葉濃し坂に双子の給水塔

これ面白いです。とても良い句ですね。
季語と給水塔・・・それも二対、しかも坂。
しっかりと情景が浮かびます。

中年の夫婦見上げる桐の花

桐の花と中年夫婦・・・何となく合いますね。
見上げるでも良いのですが、それぞれが見上げたり、
遠くをみていたり・・・で、視線としても。

* 中年の夫婦の視線桐の花

夏山や尾根を横切る雲の影

良い句ですね・・・夏山や・・・のやが効いているかな？
とも思えます。

* 夏山の尾根を横切る雲の影



ヒコーキの腹を見ている原爆忌

飛行機の腹ってというのは、すばらしい発想です。原爆忌との兼ね合いもばつぐん。

* 飛行機の腹を見ている原爆忌

続いてうさおさんです。

灼光に向日葵の首うな垂れる

面白い句です。素直に詠まれていて良いですね。

向日葵と背を比べてはゴッホなり

向日葵を見ながらゴッホの気持ちになられたのですね。

* ゴッホ気分向日葵に背を比べ立つ

炎天の遺跡の石に迫られて

ひとつ切れを入れる事で、句が大きくなります。

炎天や、としてみましよう。

* 炎天や遺跡の石の迫りくる

道を灼く風を少しの涼となす

道を灼く暑さ・・・分かりやすく炎天ではどうでしょうか？

涼と重なりますがこの方がより分かり易いと思います。

* 炎天に風は少しの涼となる

いかがでしょうか。

健さんもうさおさんもお上手になられたと思います。

私とは言えば、俳句も小説も不調・・・

夏の暑さのせいにせず、がんばらなくては・・・

と思っています。

皆様もご自愛くださいね。

藍浴衣ゆるやかに着て逢瀬かな

ひとときを螢の里の人となる

ゆうこ